

＜高知県佐川町への視察について＞

- 佐川町では、総合計画を策定するにあたって、全職員が策定に関わることに加え、できるだけ多くの住民がまちの未来を思い描き、考え、語り合い、計画づくりに参加することを一番の方針とし、総人口 13,114 人のうち、353 人（寒川町の人口 48,000 人に置き換えると約 1,300 人）がワークショップメンバーとして参加しました。策定を通して、まちに必要な人材を発掘し、人の長所を見極め、能力を引き出し、支援することで、このまちから新しい動きが次のとおり始まっています。

例えば・・・

- ・自伐型林業への先進的な取組がはじまり、全国各地の自治体から注目を集め、林業従事者の移住希望者が年々と佐川町に集まっている。
- ・デザインとプログラミングを学ぶ授業「佐川ロボット動物園」が開始
- ・離島経済新聞社の「うみやまかわ新聞」を尾川小学校5、6年生が制作
- ・農林業×デジタル×デザイン拠点「さかわ発明ラボ」開講
- ・町内福祉事務所が製造したオリジナル商品「勉強したくなる机」がグッドデザイン賞、コンスライオンズ（フランス）ほかを受賞
- ・佐川町出身の植物学者・牧野富太郎氏ゆかりの牧野公園の整備、桜の名所としての再生が始まっている。

- また、住民の幸福度を指標とするなど、ステイタスバリューではなく、マインドバリューで10年後の住民幸福度を高めることを目指した計画づくりを進めており、町のブランドである「高座」のころ。にも通じるものがあります。
- 寒川町においても、現在かかえている課題を解決するために、町の全職員参加のみならず、住民一人ひとりがまちづくりを「じぶんごと」として捉え、自分ができることに主体的に取り組むことが重要であるため、総合計画策定の担当課である企画政策課、住民との協働を担当している協働文化推進課、町のブランディングを担当している広報戦略課等の職員で佐川町を訪れ、次のことを獲得できればと考えています。

- ・町民がまちづくりを「じぶんごと」として捉え、行動に移すための手法
- ・策定に住民を巻き込む手法
- ・住民意見を総合計画へ反映する手法
- ・総合計画策定を通して、職員の学びと成長の機会とする手法
- ・住民の幸福度を指標とする手法
- ・進行管理の手法
- ・総合計画策定後の住民活動の状況確認 など

- 新たな総合計画の策定においては、次の太字の部分について参考にできると考えます。

【 見直しの視点 】

- I 優先度が明確な計画（総花的でない計画）
（ア）**選択と集中、メリハリの効いた計画（行政資源の最適配分）**
（イ）**時代の変化に対応した戦略が明確な計画**
- II 柔軟な計画
（ア）社会経済環境等の変化に応じて常に見直しのできる計画
- III 住民の満足度が向上する計画
（ア）**住民が求めている事業等を盛り込んだ計画**
（イ）**住民満足度への寄与度が見える計画**
- IV 町民が高い関心を持ち、町民と町の協働を推進する計画
（ア）**住民意見を取り込み、共感できる内容の計画**
（イ）**町の特色を生かした計画**
（ウ）**手に取って見たいと思えるデザインの計画**
（エ）**町が何に力を入れ、何を目標に、何をするか明確な計画**
（オ）**同じ目標に向かって、町民と町がともに歩むことができる計画**
- V 事業の検討・実施にあたり活用できる計画
（ア）**施策や事業の構築手法が確立した計画**
（イ）**専門的知見や客観的データが的確に反映される計画**
（ウ）コストを見える化した計画
- VI 総合計画と個別計画との関係が明確な計画
（ア）**個別計画との関係が明確な計画**
（イ）**総合計画と個別計画の進行管理が重複しない計画**

視察予定日：11月21日（水）

メンバー：企画行革担当、統計マーケティング担当、協働担当

視察イメージ：佐川町職員だけでなく、地元の特色ある活動をされている団体、個人に可能な限りお話を伺い、現場に足を運びたいと考えています。